

## 概要

- ゲートボールは、日本生まれのスポーツで、1947年に北海道においてヨーロッパの伝統的な競技である「クロックケー」を原形に、子供でも手軽にできるスポーツとして考案されたものである。
- ゲートボールは、本来の目的であった子供たちだけではなく手軽で体力的な負担も少ないことから高齢者に適したスポーツとして普及してきたものである。
- 過去においては、全国的な普及とともにゲートボール組織が乱立し、それぞれのルールを制定したため混乱が生じることとなった。
- このような状況の中から、ルール統一の声が大きくなり、それを受けて公益財団法人日本体育協会、公的財団法人日本レクリエーション協会などによる「全国統一組織準備委員会」が設置され、法人設立に向けた検討を重ねた結果、1984年に統一団体とし(財)日本ゲートボール連合が設立され、統一された公式ルールの下で競技されるようになった。
- 海外においても国内同様の混乱があったが、1985年に「世界ゲートボール連合」、1987年、「南米ゲートボール連合」さらに1991年に「アジアゲートボール連合」が設立されている。

## 寸法

- ゲートボール場は長方形とし、インサイドラインの長さ縦15m、横20mとする。アウトサイドラインはインサイドラインの外側0.5~1mの位置に設ける。
- アウトサイドライン内をコートという。アウトサイドラインと場外との協会までの距離および並列するコートの間隔(アウトサイドライン側)は、2m以上あることが望ましい。

## 勾配

- コートの勾配は、特に規定はないが表面排水を考慮のうえ、できるだけ平坦に仕上げる。
- 勾配は、0.5%程度を標準とし、0.3~1.0%の範囲で決定することが多い。クレイ系舗装の場合は、上限勾配を0.7%程度とすることが望ましい。

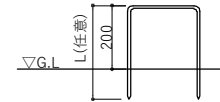
## 方位

- 太陽光線や季節風によるブレい上の影響は少ないので、コートとしては特に方位は考慮しなくてもよいが、本部席やメインスタンドは西に向かないほうがよい。

## 附属品

### ゲート

- コート内の3ヶ所に、地表より20cmの高さに立てる。第1ゲートは、第4ゲートラインより4mの地点とし、第2ゲートは、第3コーナー手前8mの地点、第3ゲートは、第3ラインから10mの地点に立てる。各ゲートは競技ラインからゲートの中心まで、それぞれ2mとする。
- ゲートは、コの字型で直径1cmの丸棒を使用し内幅22cm、脚長20cm以上とする。
- ゲートには、ゲート番号を表示し着色する。表示は、縦・横10cm以内の範囲でゲートの上に固定し、着色はコート面と比較して見やすい色とする。



### ゴールボール

- コート中央(対角線の交点)に、地表より20cm高さに立てる。
- ゴールボールは、直径2cm(許容範囲±1mm)の丸棒を使用し長さ20cm以上とする。
- ゴールボールには附属品をつけるか着色する。着色はコート面と比較して見やすい色とする。